

直接引用形式を前項に持つ複合名詞「～状態」をめぐって

新屋 映子・東條 和子

A Study of Compound Nouns Including Utterances: “-Jootai”

SHINYA Teruko, TOJO Kazuko

桜美林大学

桜美林論考『言語文化研究』第4号 2013年3月

The Journal of J. F. Oberlin University

*Studies in Language and Culture*, The Fourth Issue, March 2013

キーワード：「状態」、複合語化、直接引用形式、臨時一語、若者言葉

## 要 旨

近年、「私も初めて行った時は「何だコリヤ??」状態だったから気持ちは良く分かる。」(Yahoo! ブログ) の下線部のような言い方を耳にする。前項と「状態」との間に、本来であれば介在するはずの「という」「といった」などの機能語を用いない「『何だコリヤ??』状態」は発話形式を前項とする臨時一語の複合語である。本稿ではこうした「(直接引用形式) 状態」について、形式および機能の側面から考察を加えた。

「状態」という名詞は、明治から現代にかけて、単純語から複合語後項へと使用が移行し、複合語「～状態」においては前項と後項が素材関係にあるものから同格関係にあるものへという変化が生じている。「(直接引用形式) 状態」の出現は、そうした流れの延長線上に位置づけられる。

「(直接引用形式) 状態」の前項と後項の意味関係は、前項で発話形式を提示し、そのように表現できるものとして「状態」を表すというメタ言語関係である。対象自体を描写するのではなく、話者の感じ方を通して対象を伝えるという意味で間接的であるが、半面、対象の客観的な叙述を避け、対象に対する話者の感じ方を直接に吐露するという意味で直接的であり、受け手は情景を話者の印象そのままに感じ取ることができるという表現効果を持つ。こうした表現が多用される背景には若年層のコミュニケーションストラテジーが働いている。

## 1. はじめに

数年前のことであるが、電車に乗り込んで発車を待っていると、ベルが鳴り響く中、若者が二人駆け込んで来て、そのとき一人が発したことばが(1)であった。

(1) やつと間に合った状態。

イントネーションは「ヤツトマニアツタジヨウタイ」(圈点が高く発音される場所)である。最後の句点は感嘆符で表記すべきかもしれない。あまり耳にしない言い方であったため、強く印象に残っている。その後ときどきこのように一息に発音される「～状態」に出会うようになった。小論はこうした「～状態」について文法的な観点から改めて観察しようとするものである。

## 2. どのような言語単位か

(2) 私も初めて行った時は「何だコリヤ??」状態だったから気持ちは良く分かる<sup>(1)</sup>。

(2) の下線部の「何だコリヤ??」は直接引用形式である。直接引用形式が名詞を修飾するためには(3)(4)のように、本来「という」「といった」などの介在語を必要とするはずである。

(3) 途中で手をあげる人がいると停車し、「これ以上どこに入るの」という状態で更に乗客を拾っていく。

(4) 「一時期よりは不安は少なくなった。専任のトレーナーがついてくれているし、先生方も見てくれているし」といった状態で試合当日を迎え<sup>(2)</sup>、Aは周囲も驚くほどの成績を残してその大会を終えた。

しかし近年(2)のように本来結合しないはずの表現形式が「状態」を修飾する例が少なくない。以下に類例を挙げる。

(5) 昨日まで調子が上がらなかったが、昨日の刺激で調子が上がってくれた。金沢についてアップして「やったね!!!」状態だ。

(6) 交通量少なくて助かったのか少ないが故にスピード出す所であぶなくも在ると。IBOXの運転手さんの頭の中は「え??」まさに「どぼちて・・・」状態。

(7) この数日間の寒さにママンはスパッツにGパンをはき、カイロまで貼って・・・身体は、「おばちゃん!」状態でした(; ;)

(8) 以前も声優さんの迫真の演技にのたうってしまって、どうにも「きゃ～～～」状態から脱することができなくて困ってる、ってそんな初心な記事を書いたのですが、その話をしたのね。

このほかにも

「春名愛こと大西けんじで～す」状態、「あっちむいてほいっ!!」状態、「自分もそうだけど、ちょっと～中国は?他の国は?」状態、「こんなに難しかったっけ」状態、「ひでや?あ?誰それ?」状態、「みんな私が悪いんだ」状態、「カツオー!!(byサザエさん)」状態、「アタシ悪くないもん」状態、「空き金庫あります」状態、「なんで機嫌悪いの?そんな君は嫌

いだよ！」状態

等々、同様の例は枚挙に暇がない。いずれも直接引用形式が直に「状態」を修飾するものである。これらはどのような言語単位と考えればよいのであろうか。また、どのような機能を持つ表現形式なのであろうか。以下、こうした表現形式を「(直接引用形式) 状態」と称して稿を進めることにする。

## 2-1. 複合名詞か

名詞に上接するのは以下のようなものである。

- ① 用言の連体形<sup>(3)</sup>：「動く歩道」「曲がった釘」「青い空」「一年生の<sup>(4)</sup> 太郎」
- ② 連体詞：「いわゆる変人」「あらゆる種類」「あの人」「とある所」
- ③ 名詞に下接する「の」「という」「といった」などの接続語句<sup>(5)</sup>：「大学の経営」「花子という女性」「狙の鯉といったありさま」
- ④ 複合名詞の前項：「教育改革」「釣り道具」「職人気質」

「(直接引用形式) 状態」の前項である(直接引用形式)は①の用言の連体形でも、②の連体詞でも、③の接続語句でもないから、消去法でいけば、④の複合名詞の前項ということになる。即ち「(直接引用形式)状態」は直接引用形式を前項とする複合名詞ということである。

## 2-2. 複合名詞の種類

奥津(1975)は生成文法の観点から複合名詞に以下の5類型を認めている。

### ① NN型

- 同一名詞連体修飾節中の名詞と被修飾名詞の組み合わせ。  
例：春ニ 吹ク 風 ⇒ 春風(時格+主語)
- 付加名詞連体修飾節<sup>(6)</sup>中の名詞と相対名詞または同格連体名詞との組み合わせ。  
例：朝メシヲ 食ウ 前 ⇒ 朝メシ前(目的語+相対名詞)

### ② AdvN型…副詞を連体修飾節を含む連体修飾構造から、述部用言を消去。

例：キラキラト 光ル 星 ⇒ キラキラ星

### ③ AN型…連体修飾節から述語形容詞の時制詞を消去したものと被修飾名詞の組み合わせ。

例：白イ ウサギ ⇒ 白ウサギ

### ④ VN型…連体修飾節から述語動詞の時制詞を消去したものと被修飾名詞の組み合わせ。

- 同一名詞連体修飾節の動詞語幹と被修飾名詞の組み合わせ。  
例：枯レタ 草 ⇒ 枯レ草(自動詞+主語)
- 付加名詞連体修飾節中の動詞語幹と相対名詞または同格連体名詞との組み合わせ。  
例：(何カヲ) 食ベタ 残り ⇒ 食べ残り(他動詞+相対名詞)

### ⑤ V - AuxN型…述部の助動詞や接辞の時制詞を消去したものと被修飾名詞の組み合わせ。

例：切ラレタ 与三郎 ⇒ 切ラレ与三郎(動詞-受身+主語)

「(直接引用形式) 状態」の前項は名詞、副詞、形容詞語幹、動詞語幹、動詞+助動詞/接辞



のいずれにも該当しない。

また、野村 (1977) は、複合名詞の構成パターンに以下の6類15種を挙げている。野村はAを体言類、Bを相言類、Cを用言類、Dを副言類の記号として用いている。

第一類：A + B (身軽)、C + B (話べた)、A + C (雨上がり)

第二類：B + C (早起き)、C + C (立ち読み)、D + C (ほろ酔い)

第三類：B + A (丸顔)、C + A (打ち傷)

第四類：A + A (山道)

第五類：A・A (朝晩)、B・B (あまから)、C・C (売り買い)

第六類：A = A (ひとびと)、B = B (ながなが)、C = C (とびとび)

「(直接引用形式) 状態」はこれら六類のいずれにも該当しない。「(直接引用形式) 状態」は破格の複合名詞という以外にない。

### 2-3. 語彙的複合語と統語的複合語

複合語には語彙的複合語と統語的複合語があるとされる。生成文法理論を背景とした影山 (1993) は、前者は語彙部門で形成され、後者は統語部門で形成されるとする。本稿は生成文法に拠るものではないが、複合語に生産性の異なる2種があることは疑いを入れない。語彙的複合語は生産性が低く、統語的複合語は生産的である。辞書に登録されるのは語彙的複合語である。

ゆもと (1977) は、複合語の意味には、「砂糖ぬきココア」のように構成要素の意味から組み立てられる「くみあわせ」的なものと、「どろぼう」のように要素の意味からは引き出すことのできない「ひとまとまり」的なものがあるとする。「ひとまとまり」性は、影山 (1993) では「意味の慣習化」、斎藤 (2004) では「単語化」「質的転換」と言われるもので、語彙的複合語に特徴的な性質である。これに対し統語的複合語の意味は「くみあわせ」的で、透明である。

影山 (1993) は語彙的複合語の特徴として、語彙的制限 (例：「雨が降る」に対する「雨降り」はあるが、「雪が降る」に対する「雪降り」はない) や形態的緊密性 (例：「店じまい」「頭取宅」はあるが、統語的要素は排除されるため、「[はやらない店]じまい」「[銀行の頭取]宅」はない)などを挙げている。統語的複合語には基本的にこうした制限はない。

また、語彙的複合語は「シャインシヨクドウ (社員食堂)」のようにアクセントも一語化して一息で発音されるが、統語的複合語は「キユウシュウテンキン (九州転勤)」のように通常、アクセントの一語化は起こらない。

では、「(直接引用形式) 状態」という複合語は語彙的であろうか、統語的であろうか。語彙的複合語、統語的複合語の諸特徴に照らしてみると、「(直接引用形式) 状態」は、

- ①生産性が高い。
- ②意味はくみあわせ的で透明である。
- ③語彙的な結合制限はない。

④前項には文相当の形式も現れる。統語的要素の制約はない。

⑤アクセントは、〈(前項) + ジョウタイ〉から〈(直接引用形式) + ジョウタイ〉へと変化し、アクセントの山が一つになっている

例：ナンドコリヤ + ジョウタイ → ナンドコリヤジョウタイ

①～④は統語的複合語の特徴であり、⑤は語彙的複合語の特徴である。即ち「(直接引用形式) 状態」は構造的には統語的、音声的には語彙的ということになる<sup>(7)</sup>。

## 2-4. 臨時一語

林 (1982) は、その場限りで作られ、すぐに消えていく単語を「臨時一語」と呼び、『『モデルAに乗って世界一周』ドライブ』『『マイタウン東京』構想』『“短期決戦”方針』など、名詞を語末に持つさまざまな臨時一語の例を挙げている。また石井 (2007) は文章における臨時一語の発生状況を調査するにあたって、臨時一語の認定基準を以下のように設定している。(pp.251-253)

① 複数の単語が臨時的に結びついたものである

「臨時的であるかどうかは、その結びつきが辞書類に立項されていないということで間接的に判断するほかない。」

②-1 複合語である

「臨時的に結びついた単語 (造語成分) が、その結合部に助詞・助動詞を介入させず、全体として一つの語の形式をとることを原則とする。」

「複数の単語を一語化したといえるのは、その要素がいずれも自立可能な複合語」の場合であるから、臨時的な複合語と接辞とが結びついたものを除いて、派生語は含まない。

②-2 複数の文節連続をその内部要素にもつことがある

例：「[リクルート事件の発覚] 直後」

③ もとの単語列に復元することができる

林 (1982)、石井 (2007) の挙げる臨時一語は主名詞の前項が名詞 (奥津 (1975) の NN 型複合名詞) であり、その意味で一般的な複合名詞の形態を逸脱していない。林 (1982) にも石井 (2007) にも「(直接引用形式) 状態」のような形式は取り上げられていないが、林の基準に照らしても、石井の基準に従っても「(直接引用形式) 状態」は臨時一語として差し支えないであろう。しかし、それにしても発話形式を前項とする「(直接引用形式) 状態」は形態として異常である。辞書に登録されることもなければ反復して使用されることもない、その意味で典型的な、しかし破格の臨時一語である。

本節では以下のことを述べた。

- ・「(直接引用形式) 状態」は 破格の複合名詞である。
- ・「(直接引用形式) 状態」の前項「(直接引用形式)」と後項「状態」は統語的結合であるが、語彙的側面もある。

- ・「(直接引用形式) 状態」は臨時一語である。

### 3. 単純語から複合語へ

冒頭に掲げた例、

(1) やつと間に合った状態。

は、「ヤットマニアッタジョウタイ」と発音されていれば、単純語の「状態」が連体修飾を伴った一般的な形となる。本節では、「ヤットマニアッタジョウタイ」という適格な連体構造から「ヤットマニアッタジョウタイ」という破格の複合語へと「状態」の用いられ方が拡張した経緯について考察する。

新屋 (2008) は「状態」の用法について現代の総合雑誌と約100年前の総合雑誌とを比較し、次のような変化を指摘している。

- ① 単純語としての「状態」が減少し、複合語の後項要素となる率が高くなっている。
- ② 「状態」を後項とする複合語の前項要素は極めて多様化している。
- ③ 「状態」の連体修飾部も「状態」を後項とする複合語の前項要素も、主名詞「状態」と素材関係や属性関係にあるものの率が低下し、同格関係にあるものの率が高くなっている。

こうした「状態」の変化を具体例で示してみよう<sup>(8)</sup>。

- A. 地面の状態、現下見た状態
- B. 健康状態、経済状態 (前項と後項は「健康の状態」「経済の状態」のような素材関係)
- C. おひとりさま状態、激ヤセ状態、「ダメ人間」状態、「右バブル・ひび割れ」状態、「自滅のもぐらたたき」状態
- D. 順番待ち状態、ネタ切れ状態、低価格据え置き状態
- E. お祭りワッシュョイ状態、「一見さんお断り」状態

約100年前は、Aのような単純語、ないし前項と後項が素材関係にあるBのような複合語が大半であったのが、現代では前項と後項が同格関係にあるC、Dのような複合語や、発話に近い形式を前項とするEのような複合語が増えているということである。C～Eの複合語前項には旧来の用法と比較して以下のような特徴が見られる。

- ・ 字数が増加している。
- ・ 漢字、平仮名、片仮名と、字種が多様化している。
- ・ 漢語、和語、外来語、混種語と、語種が多様化している。
- ・ 「 」、『 』、“ ”、ナカグロなどが使用され、表記が多様化している。
- ・ オノマトペ、敬語、新語などを取り込んでおり、語彙の使用範囲が広がっている。

新屋 (2008) が資料とした『アエラ』(2005年1月1日～2007年9月30日)には、本稿で問題にしている「(直接引用形式) 状態」のような例は見られなかったが<sup>(9)</sup>、C～Eのような自由奔放とも見える「～状態」と「(直接引用形式) 状態」との間にさほど距離はないように見える。Dの前項はそれぞれ「順番を待つ」「ネタが切れている」「低価格で据え置いている」

と置き換えられる命題相当のものであり、Eの前項は発話形式に近い。これらと「(直接引用形式) 状態」とはほとんど紙一重であろう。

「(直接引用形式) 状態」には本来「という」や「といった」などの機能語が介在するはずである。「わけがある」→「わけあり」、「仕方がない」→「仕方ない」、「孤立の状態」→「孤立状態」のように機能語が脱落して句が一語化することは珍しくない。「孤立の状態」から「孤立状態」へという一語化の流れは、「(直接引用形式) という状態」から「(直接引用形式) 状態」への変化を類推させる。が、上記のような「状態」の変遷をみると、「(直接引用形式) 状態」が果たして「という」や「といった」などの介在語句の脱落によって生じたのかどうか疑わしくなる。「(直接引用形式) という」から「(直接引用形式)」へと連体のあり方が変容したのであれば、「状況」「事情」「事態」など「状態」の類語にも同様の現象が見られても不思議はないが、「状態」と同様のコーパス調査を行ってもそうした例は全く見られない<sup>(10)</sup>。真相は詳しい通時的研究に俟たなければならないが、目下のところ、「状態」という名詞が独自の用法拡張を遂げたように思われる。「(直接引用形式) 状態」は「状態」の用法変遷の延長線上に出来たもので、唐突に出現したものではない。

#### 4. 「(直接引用形式) 状態」の意味構造

##### 4-1. 前項と後項の意味関係

前節で、「状態」を後項とする複合名詞の前項と後項の意味関係について、素材関係、属性関係が減少し、同格関係にあるものが増加していることに触れた。素材関係とは、「心理状態」のように、前項と「状態」が素材的なレベルで関係しているもので、「状態」が前項の指示対象の一側面であり、「(前項)の状態」と言えるような広義所属関係にあるものである。属性関係とは、「緊急状態」のように、前項が「状態」の性質や「状態」に対する評価を表すものである。同格関係とは、前項が「状態」の内容を表すもので、(9) (10) のように前項と後項が下位－上位の関係にあるもの、(11) (12) のように前項と後項が具体－抽象の関係にあるものがある。

(9) 本当にダイエットを考えられてる方、詳細を見てね!! いつも品薄状態なので興味がある方はお早めに。

(10) 帰宅後はテレビでホークス戦を観戦、既に12-5でボロ勝ち状態でしたね。

(11) 私は不覚にもツルンと滑り左足を前に右足を後ろに引きつつバレリーナ状態でベタッと転んでしまったのでした(汗)

(12) さぁ富士山が見えてきた! 必死で窓に顔をつけて田舎のおのぼりさん状態(笑い)では、「(直接引用形式) 状態」の前項と後項はどのような意味関係にあるであろうか。「(直接引用形式) 状態」における直接引用形式は「状態」の下位概念でも、具体化でもない。両者は、

<当該事態に直面したときの認識や知覚を言語で表現すれば「(直接引用形式)」となる、そのような言語表現に結びつく状態>

という、いわばメタ言語関係であり、直接引用形式と「状態」とを結ぶものは、そうした潜在的な結合意である。

林 (1982) は、「「マイタウン東京」構想」「「短期決戦」方針」のような臨時一語について、「「マイタウン東京」や「短期決戦」は、それぞれ「構想」「方針」の内容で、間に「との」「という」のようなつなぎのことばを入れることができる。こういう「構想」「方針」などのことばは「事情」「情勢」「見通し」などの語とともに、形式名詞「こと」に似た性格をもち、情報を加えるよりも、名詞のかたまりを作るための括りの働きを第一とするものである。」と述べている (p.19)。「(直接引用形式) 状態」の前項と後項はメタ言語関係であるから、同列に論じることはできないが、「状態」が「情報を加えるよりも、名詞のかたまりを作るための括りの働きを第一とする」という点では相通じるところがある<sup>(11)</sup>。近年、日本語の名詞指向性が指摘されるようになった<sup>(12)</sup>。日本語にはコトを名詞的に把握する傾向があるという意味である。「やっと間に合った！」でよいのに、なぜか「やっと間に合った状態！」と「状態」を付加してしまう。「(直接引用形式) 状態」も日本語の名詞指向性の一つの現れなのかもしれない。

#### 4-2. 引用部発話者の人称

「(直接引用形式) 状態」の前項に引用される発話は現実か非現実かを問わず、また、発話者自身の発話 (内言) か否かも問わない。大半は話者自身の発話 (内言) ではあるが、(13) (14) のように他者の発話 (内言) や、他者に想定される発話 (内言) の場合もある。(15) は発話者が誰かに無関心な慣用的な発話形式である。発話者の人称に制約がない点にも「(直接引用形式) 状態」使用の自在さが窺える。

(13) 誰に似たのか、頑固な子で、そういわれても謝らない！「アタシ悪くないもん」状態。

(14) そして東川口では583系に出会いました。パパにとっては別に珍しくもないのですが、元輝くんにとっては初めての出会いです。『パパ、前から何かくるよ!!!』状態です。仙台車両で喜多方から舞浜まで運転されたものですね。

(15) ソヌヒョンが韓国に戻ってくる飛行機内で「お医者様はいらっしゃいませんか?」状態が発生し、電動工具で飛行機内緊急オペ、、、

なお、「(直接引用形式) 状態」の前項には (16) ~ (18) のようなものもある。いずれも当事者の心理を表し、内言に準ずるものである。

(16) 座布団ぐらりと並んでた。何と琉球緋の本物！ 座れずに立ち、座布団に目が・状態です。

(17) だから一見、とてもフレンドリーに思われるのですが、親しくなると、気を使わなくなるので、あんまりしゃべらなくなりますねえ。。。気を使ってる間はスイッチオン!!状態で、親しくなるととたんにオフ!!

(18) ユークン、代休のこと、すっかり忘れてたみたいでミータンに言われても「???」状態で (苦笑) 理解できたときの喜びようといったら、もう (笑)<sup>(13)</sup>

## 5. 「(直接引用形式) 状態」の表現機能

「(直接引用形式) 状態」は対象自体を描写するのではなく、事態に直面した主体の感じ方を通して対象を伝えるという意味で対象との距離は間接的であり、概念化、抽象化や客観的な説明の手間を回避し直接的な吐露の言葉をそのまま利用するという意味で直接的である。ある意味で安易な表現とも言えるが、前項はモダリティを含む直接引用であるから、情景を主体の印象そのままに感じ取ることができるという表現効果を持つ。本稿における「(直接引用形式) 状態」の出典はYahoo! ブログで、執筆者の年代は不明であるが、「『どぼちて・・・』状態」などの語彙や、(19) (20) に見られるような記号混じりの表記法などから、その書き手は主に若者であろうと思われる。

(19) なんと背景が7個も (><) 交換システム作って～状態です^^A;;

(20) 紅葉して～ 落葉.... .... (;´д`) 冬には丸裸で～～枯れ木?!状態で寒そう ww でした....ゞ (・ω・;) ノあわわ

米川 (1994) は、「若者語の機能」として、

- ・ 娯楽機能 (会話に笑いを生じさせ楽しむ)
- ・ 会話促進機能 (会話を盛り上げたりテンポをよくしたりする)
- ・ 連帯機能 (親近感を持たせ、ウチの人という仲間意識を強める)
- ・ イメージ伝達機能 (視覚的あるいは聴覚的表現を用いて、瞬間的に物事のイメージを伝える)
- ・ 隠蔽機能 (既成の一般語では人に聞かれて都合が悪いことを言い換えて隠す)
- ・ 緩衝機能 (相手の感情を害したり傷つけたりするのを避けて、相手への印象をやわらげる)
- ・ 浄化機能 (その語を口にすることで不快な感情を発散させ、浄化する)

の7点を指摘している。「(直接引用形式) 状態」は娯楽機能、会話促進機能、連帯機能、イメージ伝達機能、また時には緩衝機能も発揮し得るものである。聴覚にも視覚にも訴え、具体的でリアリティのある表現形式である。こうした表現が多用される背景には、親しみやすさやくだけた雰囲気 연출すると同時に、感性を共有したいという、若年層のコミュニケーションストラテジーが働いている。「『何だコリャ??』状態」や「『アタシ悪くないもん』状態」は、「『何だコリャ??』と言いたくなるような驚くべき状態」「『アタシ悪くないもん』とふてくされ、開き直った状態」などと説明的に言わなくても、言語文化を共有する者どうしであれば引用句のみでニュアンスは十分に伝わる。「『お医者様はいらっしゃいませんか?』状態」は、「飛行機内で救急患者が出て、乗客の中に医者がいらないかを調べるために『お医者様はいらっしゃいませんか?』とアナウンスする、そのような状態」というよりもはるかに効率的な表現形式である。「(直接引用形式) 状態」の前項は、感動、狼狽、驚き、疑問、不満、抗弁などの強い主観性を表すものが大半であり、そうであればなおさら、直接引用形式が効果的であろう。「(直接引用形式) 状態」のこうした特徴は、新しい表現形式として取り上げられることの多い「(違うんじゃない?) みたいな・・・。」に通じるところが



ある。

## 6. おわりに

「(直接引用形式) 状態」は、前項で発話形式を提示し、そのように表現できるものとして「状態」を表すというものである。発話形式を修飾部とする連体構造は多いが、それらは基本的に

(21) 何だコリャ??という顔をした (作例)

(22) それが何だという態度であった (作例)

のように介在語「という」を必須とする。今のところこれらが、

(21') 何だコリャ??顔 (作例)

(22') それが何だ態度 (作例)

のように一語化する気配はない。影山(1993)は語形成における句排除の原則について、「句排除の原則が破られる事態が存在することは認めるものの、それはあくまで例外的である」と述べている (p.328)。引用句を前項とする「(直接引用形式) 状態」はユニークな新表現である。

ただ、「(直接引用形式) 状態」と同様の破格の連体構造が巷に散見されないわけではない。

(23) 犬だって家族だもんね! 運動に賛同致します。(kumakitchen.com/info/105917)

(24) 「ニッポンの白騎士」北尾吉孝さん、AIJの二千億年金溶かしちゃった問題を語る。

(<http://blogos.com/article/32930/>)

これらのうち、(24)の「犬だって家族だもんね! 運動」や(25)の「二千億年金溶かしちゃった問題」はタイトルやキャッチフレーズとしての慣用表現であり、今のところ用法は限定されている。「ごはんを食べよう国民運動」([http://www.gohan.gr.jp/Q\\_A/04\\_menu/02.html](http://www.gohan.gr.jp/Q_A/04_menu/02.html))、「地軸を元に戻そうぜ運動」([homepage2.nifty.com/wolbachia/gc/diary/041204.html](http://homepage2.nifty.com/wolbachia/gc/diary/041204.html))、「2000年代半ばのバブルを総括しようぜ問題」([twitter.com/hizirigaoka/statuses/8946104431288320](https://twitter.com/hizirigaoka/statuses/8946104431288320))、「かまくら作ろうぜ! 事件」([www34.atwiki.jp/ochiwiki/pages/815.html](http://www34.atwiki.jp/ochiwiki/pages/815.html))、「岡ちゃんゴメン現象」([ameblo.jp/conan4962/entry-10575242278.html](http://ameblo.jp/conan4962/entry-10575242278.html))、「アニメ大好きそれ以外どーでもいいぜ!! 生活」([misaka0118.blog.fc2.com/blog-category-3.html](http://misaka0118.blog.fc2.com/blog-category-3.html))等々、類例は枚挙にいとまがない。写真のタイトルとして掲げてあった「これから走るぜ気分」([www.flickr.com/photos/8168931@N04/1451557062/](http://www.flickr.com/photos/8168931@N04/1451557062/)) というものもある<sup>(14)</sup>。これらが今後タイトルやキャッチフレーズの範囲を超えて用法を拡張させていくのか、いかないのか、観察を続けていきたいと思う。

## 注

- (1) 下線はすべて筆者による。以下、文尾に出典記載のない用例はすべて国立国語研究所作成の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ:Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)で収集したYahoo!ブログの例である。
- (2) 原文は「向かえ」となっている。
- (3) 通常、名詞に上接するのは常体である。
- (4) この「の」はコピュラ「だ」の連体形とされる。
- (5) 「の」「という」「といった」などの品詞認定は定まっていない。「の」は格助詞、連体助詞、連体格助詞、「という」「といった」は複合辞、複合助辞などとされる。益岡・田窪(1992)は「の」「という」「といった」をいずれも(従属)接続助詞としている。
- (6) 同一名詞連体修飾、付加名詞連体修飾はそれぞれ寺村(1975~1978)の内の関係、外の関係に当たる。
- (7) 影山(1993)はV-V型複合動詞における統語的複合動詞/語彙的複合動詞の基準として以下のような現象を挙げている(pp.74-177)。
  - ① V1の代用形 走り続ける→そうし続ける(統語的)、遊び暮らす→\*そうし暮らす(語彙的)
  - ② V1の主語尊敬語 歌い始める→お歌いになり始める(統語的)、書き込む→\*お書きになり込む(語彙的)
  - ③ V1の受身形 呼び始める→呼ばれ始める(統語的)、書き込む→\*書かれ込む(語彙的)
  - ④ V1とサ変動詞との互換性 見続ける→見物し続ける(統語的)、貼り付ける→\*接着し付ける(語彙的)
  - ⑤ V1の重複 隠し続ける→隠しに隠し続ける(統語的)、探し歩く→\*探しに探し歩く(語彙的)
- (8) A~Fの用例は新屋(2008)による。
- (9) ブログとまじめな(?)総合雑誌というジャンルの違いも大きいであろう。
- (10) インターネットで検索したところ、「現象」を主名詞とする以下の例が見つかった。これらも「(直接引用形式)状態」と同質のものと思われる。名詞「現象」の今後の変遷を見守りたい。  
・あと、こいつ誰だよ現象ね。書いてる途中でこいつ誰?って思っちゃうと続き書けなくなる。  
(twitter.com/ht\_myk/status/180409536853704704)
- (11) 新屋(2008)は「状態」が上接語句の範疇表示的な性格を強めていることを指摘している。
- (12) 井上・金1998、林1995、金2003、新屋1989など
- (13) 「???」は沈黙文(小池1997:p.84)の一種であろうか。
- (14) ひと頃よく耳にした「なんちゃっておじさん」や、キャッチフレーズの「ゆっくり走ろう神奈川」などもこれらに連続するものであろう。

## 引用文献

- 石井正彦(2007)『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
- 井上優・金河守(1998)「名詞述語の動詞性・形容詞性に関する覚え書—日本語と韓国語の場合—」筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織編『筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究報告書』筑波大学: pp.455-470
- 林八龍(1995)「日本語と韓国語における表現構造の対照考察—日本語の名詞表現と韓国語の動詞表



- 現を中心として」宮地裕敦子先生古稀記念論集刊行会編『宮地裕敦子先生古希記念論集 日本語の研究』明治書院：pp.264-281
- 奥津敬一郎 (1975) 「複合名詞の生成文法」『国語学』101, 国語学会：pp.48-34
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』ひつじ書房
- 金恩愛 (2003) 「日本語の名詞志向構造 (nominal-oriented structure) と韓国語の動詞志向構造 (verbal-oriented structure)」『朝鮮学報』188, 朝鮮学会：pp.1-83
- 小池清治 (1997) 『現代日本語文法入門』ちくま学芸文庫
- 斎藤倫明 (2004) 『語彙論的語構成論』ひつじ書房
- 新屋映子 (1989) 「“文末名詞”について」『国語学』159, 国語学会：pp.88-75
- 新屋映子 (2008) 「総合雑誌に見る名詞「状態」の用法—約100年を隔てた2誌を比較して」『日本語科学』24, 国立国語研究所：pp.55-76
- 寺村秀夫 (1975-78) 「連体修飾のシンタクスと意味 その1～4」『日本語・日本文化』4～7, 大阪外国語大学研究留学生別科
- 野村雅昭 (1977) 「造語法」『岩波講座 日本語9 語彙と意味』岩波書店：pp.245-284
- 林四郎 (1982) 「臨時一語の構造」『国語学』131, 国語学会：pp.15-26
- ゆもとしょうなん (1977) 「あわせ名詞の意味記述をめぐって」『東京外国語大学論集』27：pp.31-46
- 米川明彦 (1996) 『現代若者ことば考』丸善ライブラリー

付記：本稿は2012年3月に行われた日本語研究国際学会（主催：CELIJA (Cercle de linguistique japonaise)、会場：パリ・ディドロ (パリ第7) 大学) において口頭発表したものに基づいている。本稿を成すに当たって、東條が新たな用例収集を行い、新屋・東條の両名で改めて検討した。執筆は主に新屋が担当した。